

やがて中から戸が開いて

老夫婦が現れ 一瞬驚きながらも

落人である彼をやさしく

迎え入れてくれた

そして傷口を手当てしたり

濡れ切った着物をとりかえさせたり

ねんごろに彼をいたわってくれた

でも

彼のからだはすっかり疲れて

冷え切っていた――

何も言葉がいえなかった

彼の名前も住所も年令も

彼の口からは語れなくなっていた

彼の容態は刻々と変って行った

かすかに唇が開いて

母を呼ぶ様に

何かを訴えていたが